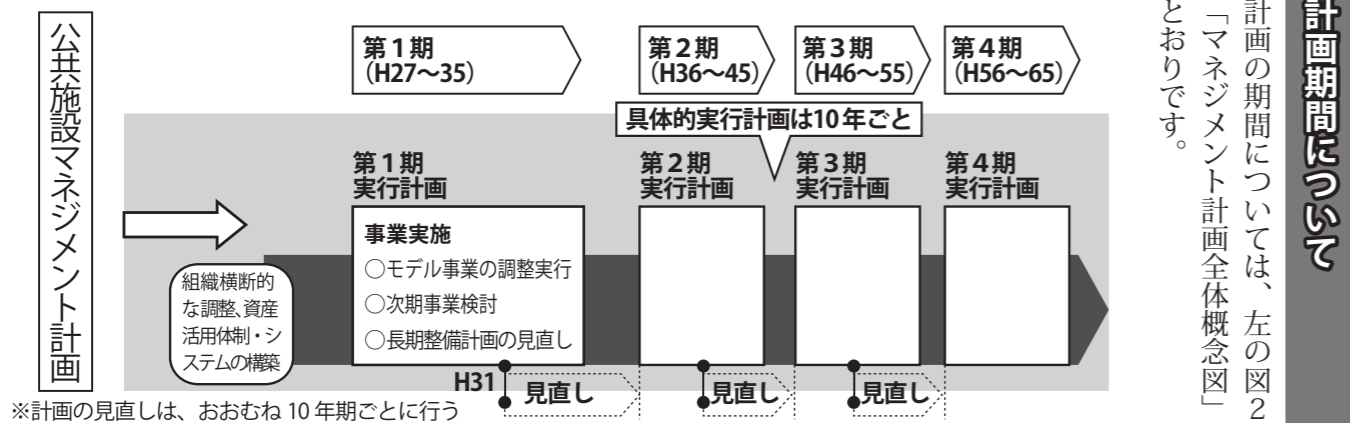




「日光市公共施設 マネジメント計画」を 策定しました

くわしくは 行政改革課 行政改革係 ☎25-7722

図2：マネジメント計画全体概念図



※計画の見直しは、おおむね10年期ごとに行う

計画期間について
計画の期間については、左の図2のとおりです。

計画の具体的内容(記載項目)について
公共施設を取り巻く現状と課題、公共施設の実態把握、市の人口や財政、公共施設の現状を把握・分析するとともに、施設の劣化状況の把握や用途ごとの利用状況、運営状況について分析し、課題をまとめていきます。

◆公共施設マネジメント基本方針
実態把握により明確になった課題の解決に向けて、公共施設数とそれに係る維持管理や更新のための経費が市の人口や財政状況にあった規模となるよう目指していきます。施設の有効活用や適正配置など、公共施設の適正化に取り組むために必要な方向性を示す基本方針を、次のとおり定めます。

- コストの圧縮
- ハコモノの削減
- サービスの最適化

◆基本方針を実現するための改善の方策
基本方針を具現化するための全体的な改善の方策である「改善方針」(主体方針)を、次のとおり提示しています。

○施設重視から機能重視への転換に

市は、公共施設の有効活用と適正配置を目指すための方針をまとめた「日光市公共施設マネジメント計画」を策定しました。ここでは、計画の概要などをお知らせします。

なお、詳しい内容については、今月号の広報にっこうと同時配布の「マンガ版 日光市の公共施設の未来を考えよう」をご覧ください。

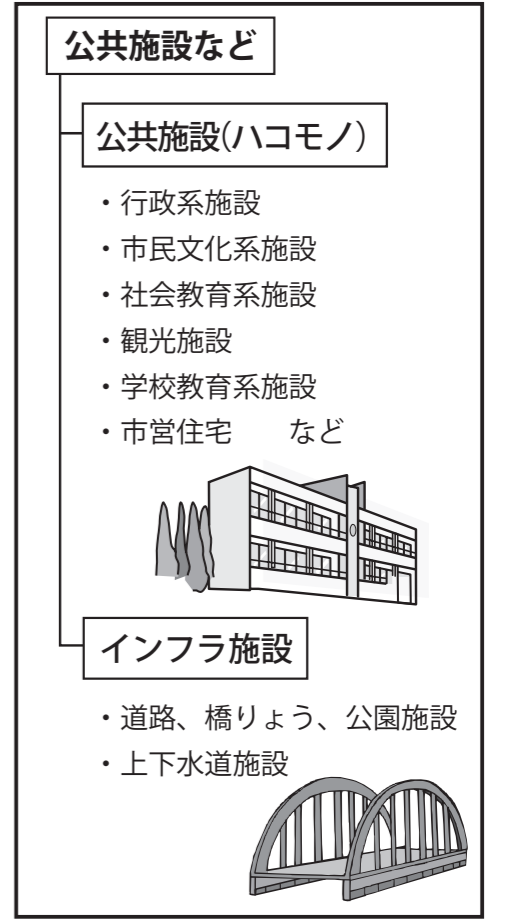
公共施設マネジメント 計画策定の背景

市内の公共施設の多くは、戦後の高度経済成長期に集中して整備してきたことから、経年による老朽化が進行しています。今後これらの施設は更新時期が集中し、改修や建て替えなどに膨大な費用が必要になります。

さらに、人口減少が進んで財政状況が厳しさを増しており、今後全ての施設をそのまま維持するには、十分な経費を賄えない状況です。公共施設のあり方を抜本的に見直しなれば、必要性の高い施設を良好な状態で保つことができなくなる恐れがあります。

これが、いわゆる「公共施設の更新問題」と言われるものです。日本全体で人口減少・少子高齢化が深刻な社会問題となる中、当市だけでは

図1：対象施設の構成イメージ



なく多くの自治体が抱える共通の課題となっています。

公共施設マネジメントとは

市が保有する公共施設を、人口や財政状況などに見合った規模(施設数や面積)とし、市の将来を担う次の世代への過度な負担とならないように、全体的な視点で考え、工夫ややりくりをすることです。

公共施設マネジメント計画とは

公共施設の有効活用と、改善に向けた取り組みの基本的な考え方を示した計画です。実態把握や詳細把握に基づく課題解決のための考え方と

よる施設の再編

○施設長寿命化と安全性の確保
○資産マネジメントの展開による効率的な資産管理運営
○問題意識の共有化と市民との協働

また、全体的な改善方針に基づいた、用途別改善方針を策定する他、改善方針を進めて行くための数値目標を次のとおり設定します。

○市が保有する施設の総延べ床面積を、平成65年までの今後40年間に現状の53・6万㎡から32%削減し、36・5万㎡にする

公共施設の再編・保全に向けた取り組み

個別施設の具体的事業内容や行程などについては、実行計画の中で示すこととし、これから必要となる施設再編・保全の検討作業について整理しています。

計画の公表

日光市公共施設マネジメント計画本編および概要版は、市ホームページからダウンロードができます。また、市有施設での閲覧が可能です(本庁舎2階情報公開コーナー、各総合支所、支所・出張所、図書館など)。今後、各地域での説明会やシンポジウムなどの開催を予定している他、出前講座なども受け付けています。詳しくは行政改革課までお問い合わせください。

対象施設について

対象となる施設は、市が保有する公共施設(ハコモノ)とインフラ施設全般です(図1)。

「日光市公共施設マネジメント計画」について、多くの方々を知ってもらうため、マンガ版のパンフレットを作成しました。公共施設マネジメントに関するマンガは、平成25年度に今市工業高等学校の生徒が作成した「日光ハコモノがたり」に続く第2弾です。

今回は、宇都宮市の文星芸術大学マンガ専攻の菜畑慧さんと、田中誠一准教授の協力により完成しました。このマンガを通して、これからの公共施設や市の将来について一緒に考えてみませんか？



マンガ版パンフレット(イメージ)